

福岡県立久留米高等学校父母教師会

〒830-0038 久留米市西町鞍打482

TEL 0942-33-1288

1 会員数及び会費

区分	P会員	T会員	合計
会員数	825人	55人	880人
一人あたりの年会費	9,600円	0円	

2 収支決算

	費目	金額	摘要 (主な使途)
収入	会費	7,861,600円	<事務局費> ・各委員会活動費・研修視察費・各種負担金
	前年度繰越金	2,552,661円	・大会等参加旅費・雇員人件費・慶弔費
	その他の収入	3,876円	
	合計	10,418,137円	
支出	事務局費	4,482,154円	<学校後援費>
	学校後援費	3,296,838円	・学校行事費・図書費・教材実習費
	事業積立金	500,000円	・生徒指導費・各種団体負担金・保健衛生費
	合計	8,278,992円	・需要費・環境整備費

3 設けられている会則、運営規則、会計規則等

会則などの名称	制定・改正年月日	要旨
福岡県立久留米高等学校父母教師会会則・細則	昭和58年5月23日	制定適用
	昭和61年5月21日	一部改正
	昭和62年5月18日	一部改正
	平成元年5月13日	一部改正
	平成2年4月1日	一部改正
	平成4年4月1日	一部改正
	平成5年4月1日	一部改正
	平成18年4月1日	一部改正
	平成21年4月1日	一部改正

4 発足から今日までの歩み

年月日	PTAの沿革
昭和24年10月1日	福岡県立久留米高等学校設立認可
昭和58年5月23日	福岡県立久留米高等学校父母教師会発足
平成20年8月22日	平成20年度全国高等学校PTA連合会大会団体表彰
平成21年8月27日	平成21年度優良PTA文部科学大臣団体表彰

5 地域の概要

本校の位置する久留米地区は、県南部の中核都市である久留米市をはじめとして、多くの産業を持つ地域である。また他方では、九州一の河川である筑後川を擁する平野部に位置し、高良山・耳納山などの連山に接するなど、緑豊かな側面も持っている。さらに、古く筑後国府の設置によって北部九州の行政・交通の要衝となった地域性は、現在にも受け継がれ、九州自動車道と大分長崎道のクロスポイントであるとともに、多くの国道が走り、JR鹿児島本線、久大本線、西鉄天神大牟田線などの交通網が発達するなど、中核都市として重要な役割を果たしている。また、産業による活況や緑豊かな環境の中で、県南部の情報発信地として発展してきたこの地域は、時代の最先端を担う多くの人材を輩出している。

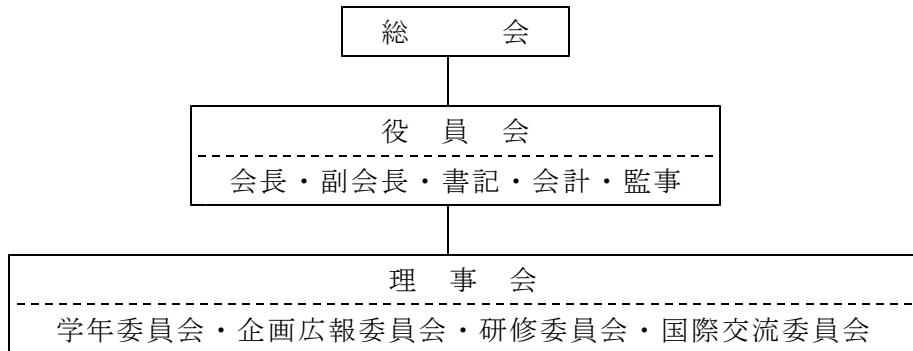
本校は、創立以来長きにわたって地域の信頼を得てきた落ち着いた校風を持ち、近年では、英語科やセサミプラン等の独自の教育活動に地域の理解と協力を得ている。

6 組織運営の状況

本校の父母教師会は、保護者全員が加入しており、教師は賛助会員としての参加である。役員9名の他、各学級からの理事、合計52名が6委員会に所属している。

委員会には、学年行事やクラス行事に携わる「学年委員会」、広報紙を作成する「企画広報委員会」、会員の研修や子どもたちの校外指導に携わる「研修委員会」、留学生との交流など国際交流事業に協力する「国際交流委員会」がある。

各委員会の活動の計画・内容について、役員会が連絡調整を行なっている。



7 広報活動の状況

広報紙「不壊（ふえ）」を年3回発行している。事業のお知らせや報告にとどまらず、学校行事やPTA行事に沿って重点記事を決め、学校と保護者をつなぐ情報紙を目指して広報委員会が編集を行っている。広報紙コンクールでは、平成17年度に県の優秀賞を受賞している。

また、本校のホームページは、作成にあたってPTAが協力しており、保護者の視点を取り入れた、子どもたちの様子が生き生きと伝わるものとして、会員はもちろん、地域から好評を得ている。

8 学校教育の理解及び家庭教育に関する学習活動の状況

例年、PTA主催の研修視察を行っている。研修委員が中心となって計画を進め、会員からの要望を集約し、できるだけ希望に添うような内容にしている。ここ数年は、進路希望先訪問として大学視察を中心に行っている。後日、会員に向けて報告会を開いたり、広報紙に掲載して、研修内容の会員への還元を図り、会員が進路についての識見を深めることの重要性を認識できるようにしている。

また、総会の際には、前後の時間帯に授業参観や学年ごとの説明会を設定して、総会出席を促すとともに、会員の学校の教育活動状況の把握と理解が深まるよう工夫している。

各学年の学年委員会では、2学期には外部講師による「進路講演会」を実施し、子どもたちの進路実現を支えるための保護者としての心構えについて学んでいる。また、クラス懇談会を催したり、1年生の鍛錬行事や3年生の激励行事である「ぜんざい会」にスタッフとして参加したり、卒業祝賀会を主催するなど、学校との連携・交流を図っている。

本校は「普通科」のほかに「英語科」があり、毎年様々な国から留学生を受け入れており、「国際交流委員会」が主催して、毎年、七夕とクリスマスに教師・生徒・保護者で交流会を実施している。また、機会を設けて日本語指導や日本文化についての学習会を行っている。

9 生徒の学校外生活の指導に関する活動状況

毎年決まった活動というわけではないが、生徒会が主催し学期ごとに実施している清掃ボランティアに参加したり、夏休みや冬休みに、地域の人々とともに夜間街頭補導に参加したり、地域とのつながりを意識した活動を取り入れるようにしている。

保護者との協働の場は、子どもたちが大人の持つ知恵を学び取る機会ともなり、自尊感情を高める貴重な成長の場となっている。

また、街頭補導を体験することで、他校の高校生や年齢の異なる学校段階の子どもたちの状況にも目を向け、保護者として現代の子どもたちが置かれている状況を把握することができるようになった。この活動により、子どもの育成は地域と家庭が協働して行うことで効果が上がるという意識が保護者間に広がり、学校への理解も進み、PTAの学校への協力体制がいっそう充実することとなった。

10 今後の課題

本校PTAは、学校・家庭・地域の連携協力による学校教育の充実振興を図ることを目的として活動を行っている。役員を中心として、機能的な組織運営がなされ、家庭・地域の教育力の活用を図ることができ、青少年健全育成に大きく貢献している。

ただし、いくつかの課題も抱えている。まず、社会の変化の中で、平日の活動に参加できる保護者が少なくなり、役員・理事の選出とPTA活動への参加者の確保は長年の課題である。さまざまな方策をとってはいるが、有効な手立てが見つからない状況である。

今後は、学校と連携して、更に効率化を図り、参加しやすい委員会活動の仕組みを作ること、また、魅力ある事業づくりを目指し、子どもたちが生き生きと学校生活を送ることができるよう、努めていきたい。